



↑ひなんしょでの食じ

3月27日からはじまったいわ手県いわいずみ町への昭島市しょくいんはけんたいが、4月27日に帰って来たみなさんと、そのしごとをおわりました。いわいずみ町に行ったぜんいんが「地しんのひがいをうけた地いきへの手つだい」という大切なしごとをきちんとしてきたので、いわいずみ町とますますなかよくなれたことは、昭島市にとってもとてもうれしいことです。

いわいずみ町へ行ったみなさんの活どうにたいして、5月6日には、いわいずみ町 だてかつみ町長さんが昭島市に来て、おれいの言ばをのべてくださるよていになっています。

昭島市では、これからも、すべての被がい をうけた地いきにたいして、せいいっぱい立てなおしを手つだいたいと思っています。

5回目にいわいずみ町へ行ったみなさんのほうこくです。

◎だい5はん

- ・行ったき間 4月20日(水)から4月27日(水)まで
- ・行ったしごと ひなんしょにいる人たちが自分の家やしごとに行くときの記ろく、ひなんしょへたずねて来た人へのあんない、手がみやはがきの受けわたし
- ※ 時間(昼) 午前8時から午後5時30分まで  
(夜) 午後5時30分から午前8時まで

町の人たちの話

- つなみはこわいが、それでも早くおもと地くにもどりた。

ひなんしょ

- いわいずみ町みん会かんに20人、ホテルに150人がひなんしている。ほかの2つのひなんしょと合わせてぜんぶで217人がひなんしている。
- ひなんしょから自分の家を見に行った人が、こわれた家のまどやかべを一生けんめいにしゅうりしていた。

かりにすむ家

- ぜんぶで143の家ぞくがすむ家がひつようで、おもと地くのちゅう車場に84家



↑ふくろに分けられた生活にひつようなもの

ぞく分、いわいずみえきの近くに39家ぞく分のかりにすむ家がもうすぐかんせいする。のこりの20家ぞく分は5月のおわりまでにかんせいするよてい。

### 生活にひつようなもの

- 米、ようふく、毛ふなど多くの生活にひつようなものを町のしょくいん3人でせいりしている。かりにすむ家がかんせいした後にくばるよてい。

### おいしゃさん

- ひなんしょにいるお年よりには、ほけんしさんが毎日夕方にたずねて来て、体のちょう子をみてくれる。

### おもとのほかひがいの大きかった地く

- おもと地くにある高さ12メートルの水門の上に立ってみた。ここをつなみがこえたとはしんじられない。
- おもとから海がを南に行くと、みやこ市たろう町ややまだ町のひがいはもっと大きかった。かたづいているのは道ろだけで、ごみはまだかたづけることができない。火じのあとで、こげくさいにおいがのこっている場しょがある。
- 大きなひがいをうけたみやこ市のみなとで、もう、りょうをはじめている人たちに会い、「人の生きていくパワー」はすごいと思った。
- おおつち町は、やく場ごとながされていた。町ぜん体が今でも10センチくらい水につかっただままになっている。
- 大きなひがいをうけた地くでもきょう同生活がはじまっていて、「ゆずりあい」の生活が行われていることにかんげきした。

### 【北川市長からいわいずみ町へ行ったしょくいんにおくった言ば】

いわいずみ町に行ってくれた20人ぜんいんに心からかんしゃしている。みなさんの体けんは、昭島市の地しんへのたいさくやくんれんに生かし、市みんのみなさんと一しょに考えていかなければならない。

#### 【いわいずみ町へ行ったしょくいんのみなさんのかんそう】

わだ のりひろ さん

ひなんしょからまい日しごとや学校に行く人たちのすがたを見て、一日も早くもとどおりの生活にもどることをねがっている。

たかせ ひろき さん

ひがいをうけた人が一日も早くもとの生活やしごとにもどれることをねがっている。

ふじい たかし さん

「そなえあれば、うれいなし(前もってじゅんびをしておけば、さいがいがおきてもこまらない)」というが、そうぞうできないほどの大きなさいがいがおきたときはとてもむずかしいと思う。

たちかわ あきら さん

ひがいにあった人たちに元気をもらった。何年か後にまた会ってみたい。

